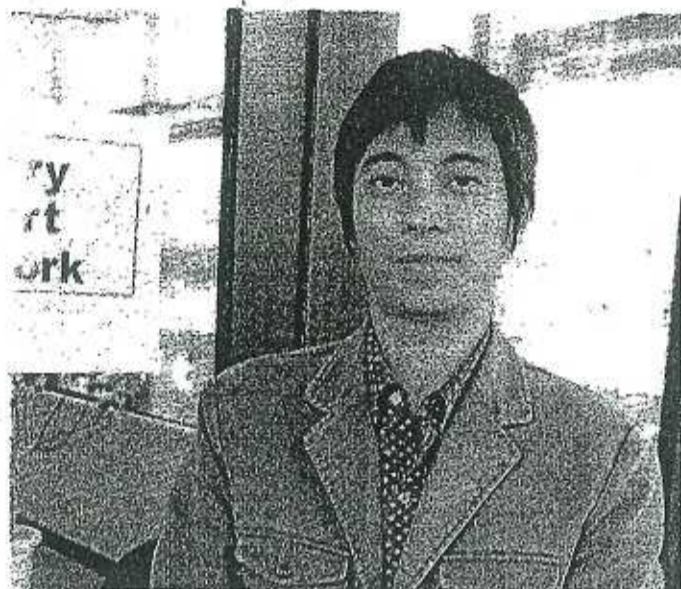


依存パチンコ 回復を支援

電話相談所設置へ

「パチンコをやめたくてもやめられない」「あちこちに借金があるが、解決方法が分からない」「あい」。そうしたパチンコの悩みを答える電話相談所が四月、沖縄に開設される。全国のパチンコ店をつくる全日本遊技事業協同組合連合会が資金を出し、薬物依存回復支援に携わる専門医を中心に、社会問題となっているパチンコ依存の解決に取り組む。(平良秀明)



リカバリーサポートネットワーク代表の西村直之医師
西原町の事務所

全日遊連出資 西村医師が提案

親がパチンコで遊んでいる間に車内に放置された幼児が熱中症で死亡したり、多重債務者増加などの問題に対処するため、全日遊連は二〇〇三年四月に「パチンコ依存問題研究会」を設置した。同年十二月に全国五千六百人の利用者を調査したところ、「パチンコ依存だと思ったことがある」との回答が三割に上り、うち八割が相談先を知らなかったという。

研究会は、厚生労働省薬物依存班研究員で、薬物・アルコール依存回復支援で実績の高い精神科医の西村直之さん(四〇)を西原町、あらかきクリニック院長を招き入れ、西村さんの提案を受け、非営利相談機関「リカバリーサポートネットワーク」の設置を決めた。

全日遊連は五年間で一億円を出資。西村さんを代表に、四人の相談員を置く。全国から無料で電話相談を受け、問題の中心に応じて、各地の行政機関や回復支援団体、司法書士などを紹介する。西村さんは「パチンコによってどんな問題が起き、どう対処すればいいのかの具体的研究は全くされていない。まずは窓口を開いて問題を掘り起こし、実態を把握すること。現実的な対策が取れる」と意義を強調する。同ネットには西村さんのほか全日遊連理事長、弁護士、精神保健福祉士、司法書士、ソーシャルワーカーら計九人が運営委員に名を連ねる。相談事例を整理し、将来的には回復支援プログラムを作成していく方針。西村さんらは二十三日に東京都内で会見を開く。電話相談は四月十九日から。

「全国約一万六千のホール全員に理解されるとは思わないが、足元の問題を放置するわけにはいかない」と話す西村さん。「業界が目をつけることで、社会の批判と誤解を解消できれば、健全娯楽としてユーザー保護につながる」と強調した。

2006年 2月20日 沖縄タイムス